

共同運営部門：血液浄化センター

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
腎臓内科部長 兼血液浄化センター長	坂口 俊文
腎臓内科 副医長	田村 渉
腎臓内科 医 員	玉置 瑛一朗
血液浄化センター 参事	河野 栄治
看護師	植田 くみ子
看護師	前中 公紀
看護師	岩田 奈緒子
看護師	高田 澄子
看護師	宮園 まゆみ
臨床工学技士	奥田 重之
臨床工学技士	金口 優生
臨床工学技士	川崎 勇司

—実績—

透析導入件数	62件
血液透析施行回数	2,049回
血漿交換その他	10件
腹水ろ過濃縮再静注(外科)	3回
末梢血幹細胞採取(血液内科)	12回

—今年度の成果—

腎臓病療養指導士の資格取得

日本腎臓学会、日本腎不全看護学会、日本栄養士会、日本腎臓病薬物療法学会が共同で、標準的なCKDの保存療法を現場に浸透させることを目的に腎臓病療養指導士制度を立ち上げた。腎臓病療養指導士は、職種横断的な、CKD療養指導に関する基本知識を有したスタッフを育てるための資格で、対象は看護師・保健師・管理栄養士・薬剤師である。

毎週月曜日の多職種検討に参加しているメンバーから、透析室看護師3名、8山病棟看護師3名、薬剤師1名、栄養士3名が、講義を受け、試験に合格して、この資格を取得した。

導入患者への事前訪問

2年前から始めた看護師、臨床工学技士による患者訪問は定着し、透析導入時の患者の不安軽減に寄与している。

フットチェック

2年前より透析導入時に両下肢を写真に収め、専用のノートPCにファイルメーカーを利用してデータ保存、管理している。いつでもスタッフ全員が入力、閲覧でき、データを蓄積、フットケアに役立てている。

シャントエコー

当院では透析に必要なシャント血管造設術およびPTA

(経皮的血管拡張術)を行っている。

数年前から始めた臨床工学技士によるシャント評価のためのエコーは各人の技術が向上し、シャント外来時は必ず行っている。エコーガイド下穿刺も臨床工学技士、看護師ともに習熟し、穿刺の難しい血管の穿刺も可能となった。

災害対策を見据えた近隣施設との連携

近隣の透析施設と交流を深め、完全に顔のみえる関係ができあがった。

—来年度への抱負—

2018年度は医師数が4人から3人に減ったため、余裕のない診療を強いられたが、次年度からは医師が4人体制となるため、臨床面のみならず、研究面も充実させたいと考えている。